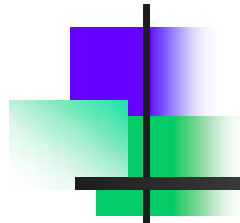
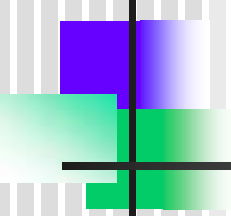


パネルディスカッション:

A decorative graphic on the left side of the slide, consisting of a black crosshair with a purple square in the top-left quadrant and a green square in the bottom-left quadrant.

私の考える日本再生とXML

2003年6月2日 16:15 ~ 17:45

A decorative graphic on the left side of the slide, consisting of a black crosshair overlaid on a purple square and a green square.

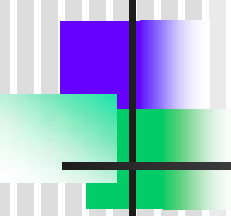
パネリスト

岡部 恵造 氏 (大塚商会)

野村 直之 氏 (ジャストシステム & 法政大学)

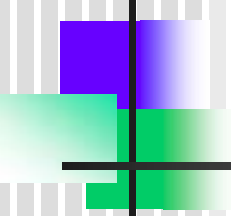
藤岡 慎弥 氏 (沖電気工業)

モデレータ: 鈴木 俊宏 (日本オラクル)

A decorative graphic on the left side of the slide, consisting of a black crosshair overlaid on a purple and green square.

私の考える日本再生とXML

- XML/Webサービス技術が人間の生き方の方向性を示している
- 日本の文化/伝統 vs. 欧米の文化/伝統
- 規律/階層/伝統 vs. 自律/分散/協調
- 欧米人は元気がよい
- 日本人は常に企業を背負っている
- 日本人は常に受身み



私の考える日本再生とXML

- IT産業を労働集約型から知識集約型へ
 - 個人の時代 流動性:企業、国境、文理
 - 飽食、「逃切り」世代のゆで蛙に熱湯をかければ希望はある
 - 資本が外資かどうかより、個人のパワーを最大限引き出してくれるのが良い企業
 - 和魂洋才は半分正しく、半分誤り: 自らの優れた文化の洗練と、他の文化(価値体型)を認め、相互に楽しめる社会インフラ(リアルもサイバーも)構築を目指すべし
 - 大企業文化(e.g. COBOL対応WAS) vs ベンチャー文化(e.g. BLog)についても同様

私の考える日本再生とXML

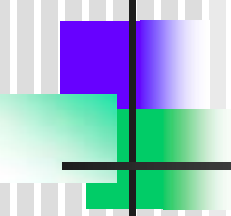
- 日本の得意な「見える、触れる、凝縮した、繊細で美的なパッケージング」をテコに、ただし、オープン、モジュラー、新規性、独創性、スピードに馴れる
 - 2歩3歩先を見ずに1歩先を見よ！
 - 質問は恥ではない！
- 「サービスの時代」らしく、徹頭徹尾、消費者サイドで考えること。ベンダーどうしが集まって生産の効率化を考えてもデフレが加速するだけ。cf. 森永卓郎氏； 松島克守：「動け！日本プロジェクト」

私の考える日本再生とXML

- RosettaNet、ebXMLなど、初めは稚拙でも、どんどん標準を作ってどんどん採用していく
- 新しいIPIP(2A10)を日本で作って、国際に認められていく
- ITを活用したJIT、KM、CRMといった発想の原点は日本にある
- 20年前に“Japan as No.1”と持ち上げられていい気になっている間に欧米ではそのアイデアをITに載せて旨く活用している
- ようやく追いつき追い越せの時代がやってきた
- 今からでも遅くない。自身を持って、これからは再度、日本の時代！
- 国際標準が日本を包囲している
- 自分が勝てるルール

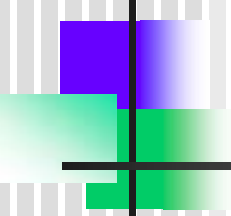
私の考える日本再生とXML

- 欧米(人)に見習え！？
 - 欧米人の発想とは？
 - 日本(主導)で標準化は無理か？
- ガバナンスの意義
 - “官公庁がまとめ役”の時代は終わった
 - Six Sigma vs. TQC(TQM)
 - 若き優秀なエンジニアの芽を潰さないように！
 - “自分だけが良ければ”という考えは捨てよ！



私の考える日本再生とXML

- 個人が自律しているか否か？
- 各業界はITがわからない。IT業界は業界がわからない。
 - 業界を越えての知的、人的交流がない。
- 純和製のXML標準はいくつあるか？なぜが出来ないか？
- なぜ業界(官公庁含)の中でイザコザが起こるか？
- まずはパソコンを開いて話を聞いたり、議論をしましょう！
 - コンピュータと人の関わりのイノベーション



私の考える日本再生とXML

- XMLコンソーシアムのような活動形態を、業界に普及させていくことがカギ
- XMLコンソーシアムに技術者を積極的に派遣すべし、体験することに意義がある
- ITはプロフィットセンターである
- 待たない！待ちはやめよう！皆でチームワークを組みながらソリューションを